

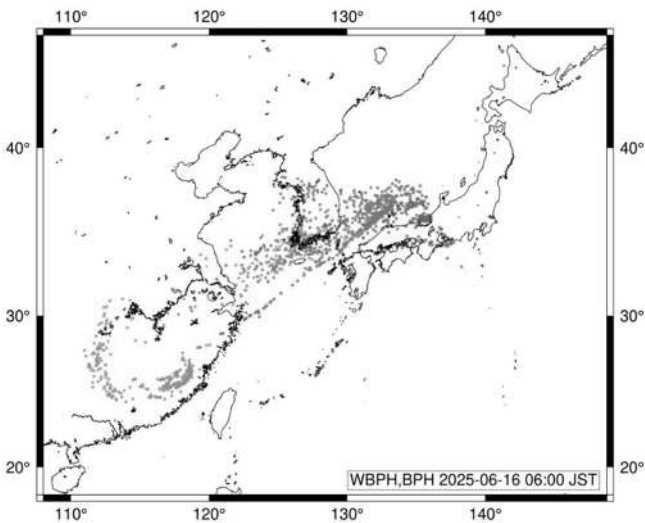
ウンカ類情報第 1 号

令和 7 年 7 月 2 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

**トビイロウンカの発生は確認されていません。
セジロウンカの発生量は平年並です。**

1 トビイロウンカ及びセジロウンカの 飛来予測

日本植物防疫協会提供の飛来予測によると、本県へのトビイロウンカ及びセジロウンカの飛来に適した気象条件は、7月2日時点で5月10日、6月15日、6月16日（図）及び6月17日の計4回出現しています。6月末までの飛来予測回数は平年並ですが、本県に飛来している可能性がありますので、今後の発生動向に注意してください。



2 トビイロウンカ

6月下旬の本田調査では発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。

図 ウンカ類飛来予測図
(6月16日6時)

提供：JPP-NET

3 セジロウンカ

6月下旬の本田すくい取り調査において、82ほ場中9ほ場で成虫が捕獲されました。また、本田払い落とし調査において、90ほ場中6ほ場で成幼虫が捕獲されました。捕獲虫数は、すくい取り及び払い落としで平年並です（表）。

予察灯では、大口町で6月18日に1頭、長久手市で6月第4半旬及び第5半旬に計8頭誘殺されています。

ほ場ごとに発生量が異なると考えられるため、ほ場をよく観察し、発生量が多い場合は防除しましょう。今後、斑点米カメムシ類の防除時期に入りますので、同一薬剤の連用にならないよう計画的に薬剤を選択しましょう。なお、本県で栽培されている「あいちのかおり SBL」や「あいちのころろ」はセジロウンカ殺卵反応（注）が弱い品種であるため、注意をしてください。

（注）セジロウンカの産卵によって殺卵物質が生成されるイネの生体防御反応

表 セジロウンカの6月下旬本田調査結果（1ほ場当たりの平均捕獲虫数） 単位：頭

調査方法	成虫	幼虫	計
捕虫網による20回すくい取り	0.12 (0.08)	0 (0.02)	0.12 (0.10)
水稻10株の払い落とし	0.06 (0.04)	0.01 (0.11)	0.07 (0.15)

（ ）内は、平年値（平成27～令和6年の平均）